

北海道浮魚ニュース

平成 13 (2001) 年度 16 号 (通巻 No.109)

2001 年 9 月 10 日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-32-7177	Fax : 0162-32-7171
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

道央～道北日本海スルメイカ調査結果

スルメイカの分布密度は沖合で高く、沿岸寄りで低い

2001 年 8 月 29 日～9 月 7 日にかけて調査船おやしお丸および北洋丸によるスルメイカ調査を行いましたので、その結果をお知らせします。

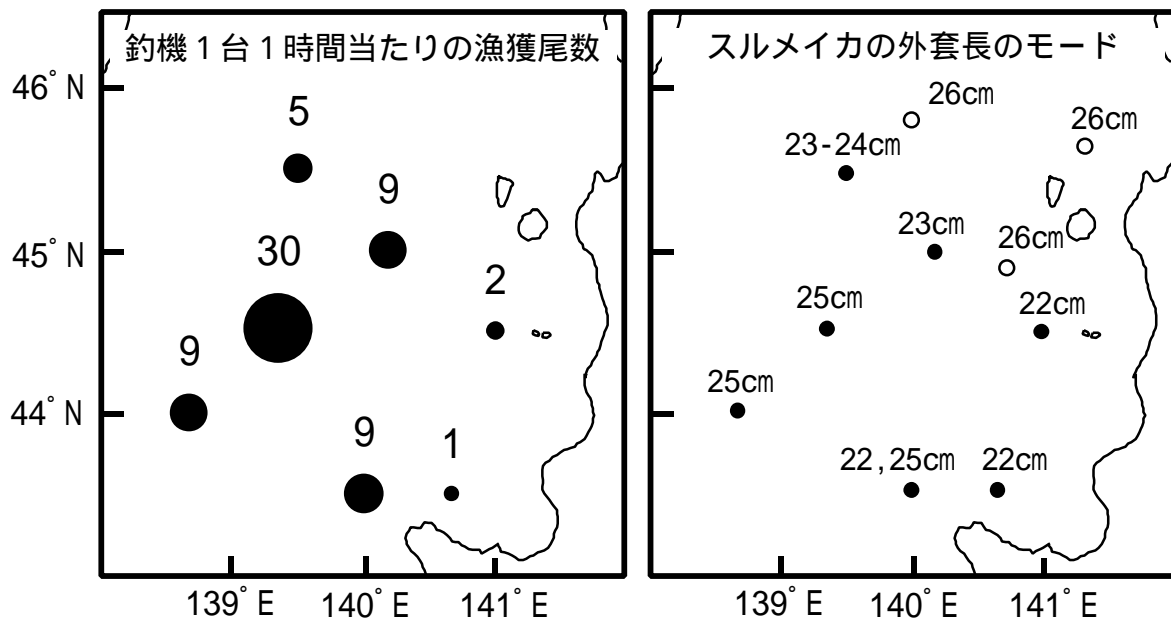


図 1 スルメイカの分布密度と大きさ

注) ● : おやしお丸の調査 (イカ釣機使用)、○ : 北洋丸の調査 (手釣り)

スルメイカの分布密度

おやしお丸の調査でのスルメイカの分布密度 (CPUE : 自動いか釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は道西日本海の沖合で 5～30 と高く、沿岸寄りでは 1～9 と低くなっていました (図 1 : 左図)。平均の分布密度は 9 で、前年の 8 をやや上回りました (図 2)。

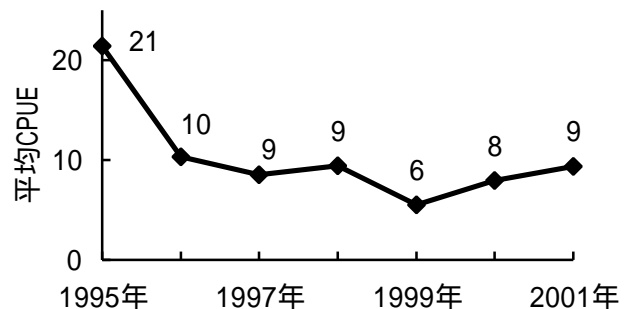


図 2 8 月下旬～9 月上旬の調査での分布密度 (平均 CPUE) の経年変化

スルメイカの大きさ

スルメイカの大きさを外套長のモード（最も多く分布しているイカの外套長）でみると、おやしお丸の機械釣りでは沖合で 23～25cm と大きく、沿岸寄りで 22cm と小さくなりました。（図 1：右図）。北洋丸の手釣りでは調査点すべてでモードが 26cm でした。

調査海域全体の外套長組成は、おやしお丸がモード 25cm、北洋丸がモード 26cm で、過去 2 年よりも大きくなっていました（図 3）。

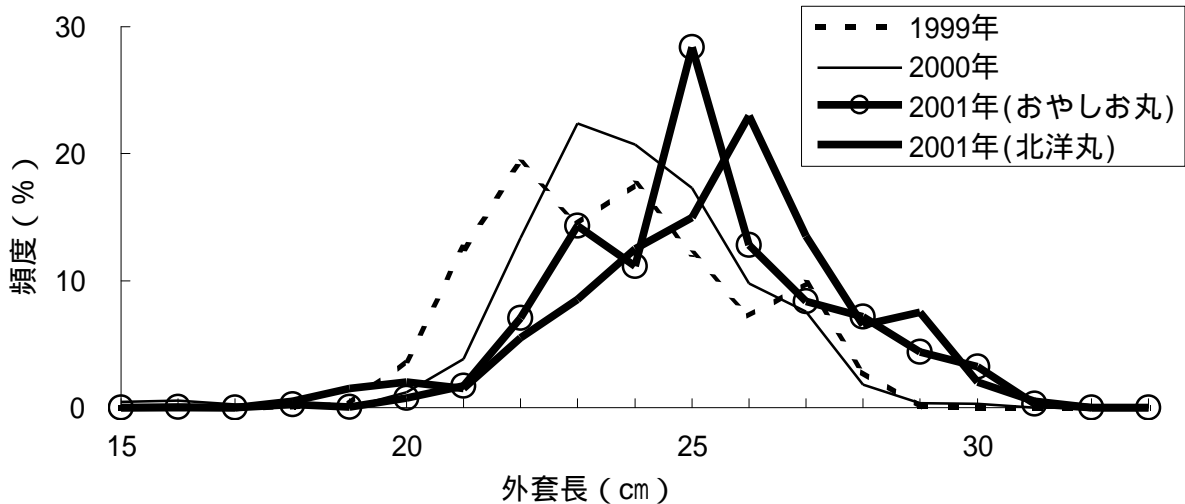


図 3 おやしお丸の調査海域全体での外套長組成

水温分布

調査海域の 50m 深水温分布は 2～17 台でした（図 4）。積丹半島の北方に水温 17 台の暖水域がありました。スルメイカが多く漁獲された CPUE が 30 の調査点は水温 7 台で、沖合の調査海域の中で水温が高くなっていました。

標識放流

スルメイカが多く漁獲された調査点で、標識放流を行いました（表 1）。標識イカを見つけた方は最寄りの水産試験場までお知らせください。記念品を差し上げております。

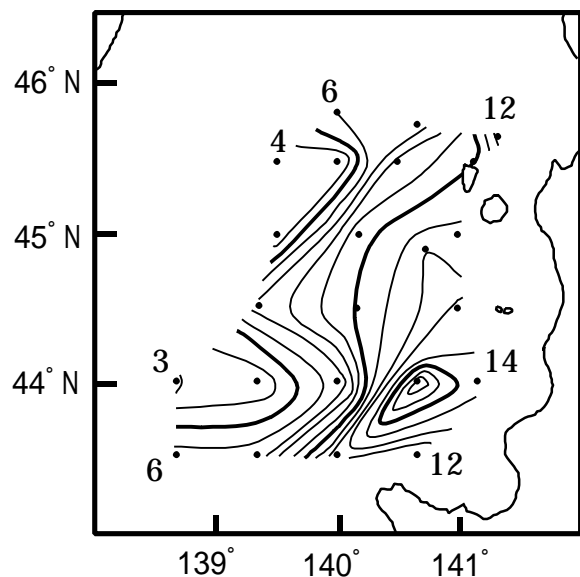


図 4 8月下旬～9月上旬の 50m 深水温分布と標識放流点

表 1 スルメイカ標識放流状況

放流月日	放流場所	標識の色・番号	放流尾数
8月31日	44° 31'N、139° 21'E	黄色・中水・6801～8000	1,198

（文責：中央水試資源管理部、稚内水試資源管理部）